



# 小城市立歴史資料館 \* 中林梧竹記念館だより

## 小城市内遺跡発掘調査成果展 “おぎを掘るXV” 「発見50年土生遺跡」特別展を開催しています

昭和46（1971）年8月に発見された土生遺跡は、佐賀平野に営まれた弥生時代を代表する集落遺跡です。調査では、農耕具をはじめとした多数の木製品、土器や石器が発見され、その貴重な調査成果から日本国内における初期農耕文化の歴史を知る上で重要な遺跡として、昭和48（1973）年に国史跡に指定されました。

今回で15回目となる“おぎを掘る”は、今年で発見50年となる「土生遺跡」をテーマにした展示を行います。

### 【小城市立歴史資料館】

#### 「発見50年土生遺跡」

#### 特別展

◆会期 ～10月24日（日）

◆会場 企画展示室

◆観覧料 無料



▲朝鮮系無文土器

歴史資料館以外の2会場でも、土生遺跡に関する展示会を行っています。ぜひ、ご覧ください。

### 【佐賀県立博物館】

#### 「発見50年 土生遺跡

—日韓を繋ぐ弥生時代の大規模集落—」展

◆会期 ～10月17日（日）

◆会場 3号展示室

◆観覧料 無料

### 【佐賀県立名護屋城博物館】

#### 「発見50年 土生遺跡」展

◆会期 ～10月24日（日）

◆会場 常設展示室・

休憩コーナー（パネル展示）

◆観覧料 無料

## おぎの歴史探検隊

### 柳生新陰流と小城藩〈その3〉

『兵法家伝書』にはどんなことが書かれているのでしょうか。現物は損傷が進み、扱うことは困難ですが、かつて調査された書籍（日本武道全集）などに掲載されているものもあります。

『兵法家伝書』は文庫本（岩波文庫）があり、「進履橋」「殺人刀」「活人剣」の3部でなっており、それを元に解説や図解が作られています。市内には、小城藩家老水町家に伝えられたと思われる資料の写しが存在しました。

表題は「さつ摩汁」とあり、この名の由来は不明ですが「新陰流兵法目録事」と同様の項目、「三学」「九箇」「天狗抄」「燕飛」などがあり、終わりに、「此の手付（書付の意味）は大体のことである」とあります。鍋島大蔵藤原元敦の著述によるもので、「詳し

くは師弟立ち合いのうえ、直接伝えるものである（意識）」としています。

直能に授与された『玉成集』は現存するものの損傷が進み、これを閲覧することは不可能です。しかし佐賀大学黒木俊弘教授（故人）は、「地域に写本が存在する」と指摘されましたが確認できません。



▲小城に伝承する「柳生新陰流伝書類」

黒木教授の論文に、この『玉成集』の特色として、「剣術を中心にした解説書であるにもかかわらず、武術以外の他の文化分野から相当豊富な比喩、引用を試みている。柳生新陰流の特色であるとともに、その内容、質量両面に、急速に発達変化した徳川時代初期の武術の推移を知るに十分である」と記されています。（終） 小城郷土史研究会／著

◆開館時間 9時～17時

◆休館日 毎週月曜日・祝日

小城市ホームページから

梧竹・歴史資料館・文化財

検索

【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課（桜城館2階） 担当 下川・永田 ☎71・1132